

独立行政法人国立病院機構東佐賀病院 広報誌

ホームページ http://www.higashisaga-hosp.jp

2018 夏季号

Vol. 48

【発行所】

佐賀県三養基郡みやき町 大字原古賀7324

独行政法人 東佐賀病院 国立病院機構 東佐賀病院

【編集発行】広報委員会



信頼関係を大切にし、 地域に根ざした 良質な医療を提供します。



永年勤続表彰



30年以上表彰者

• 12病棟 看護師 田畑 典子

20年以上表彰者

大岩根 良太 • 薬剤部 副薬剤部長

内島 弘貴 • 診療放射線科 照射主任

• 臨床検査科 医化学主任 山下 美幸

佐田 • 1病棟 副看護師長 里穂

• 1病棟 副看護師長 岸川 理恵

百子 • 3病棟 看護師 長



日次	*題字「ひがしさが」	平野	長熙	名誉院長	킡
H //					•
■シケ帯結主部					

- 看護の日の活動〜地域とのつながりを看護師の笑顔で〜 … 6 ■ 看護職員就職説明会に参加して …………………… 7
- ■ 第1回 感染予防対策セミナーを開催しました ………… 9



永年勤続表彰を受けて

12病棟 看護師 田畑 典子

この度永年勤続表彰を受けて、国立病院機構に勤務して30年の歳月が経過したことを改めて感じています。

稼業を継ぐだろうと思っていたある日、突然父から看護師になれと言われギリギリで間に合った看護学校の受験、「看護師の免許を取ったらいつでも辞めていいぞ」と言われてから42年の月日が経ちました。継続出来たことに我ながら感心しているとともに、この道に導いてくれた父に感謝しています。

看護師という職業に就いたからこそ医療について学ぶ機会が得られ、NHOに在籍したことで多くの学会にも参加させていただき、多くの方々とも知り合うことができました。

同時に還暦を迎えて、お祝いの声を掛けてくださった方、一緒に喜んでくださった方々、 今まで支えてくださった方々に感謝しながら、次の人生を一歩ずつ歩んでいきたいと思っ ています。ほんとうにありがとうございました。

薬剤部 副薬剤部長 大岩根 良太

先日、院長先生より永年勤続20年の餞の言葉を賜りました。20年といわれると長いように感じますが、思い返せば短いものです。私にとっての20年を一言で表すと「出会いは宝」です。 東佐賀病院は、入職してから7つ目の施設になります。これまで、本当に様々な出会いがありました。まずは、友人です。仕事を通して出会う仲間と友人になる。入職したての頃は考えてもいなかったことです。そして、各施設でお世話になった職場長。薬剤師として、社会人として、人間として大事なことを教えていただきました。正直なところ、私の未熟さゆえ、厳しいお言葉を頂いたことも…。20年の時を経て、取り巻く環境や景色は変わり、あの時頂いた言葉の真意を理解するとともに、出会い、成長させて頂いたことに感謝する思いです。

職場の同僚、他職種の仲間達、、、振り返れば思い出すたくさんの顔こそが、私の仕事人 生20年を物語っています。

また、何度もお世話になった職場長の退官する姿を見届ける機会がありました。その度、これまで追いかけていた背中を追うことがなくなると思うと寂しく、少し心細く感じてきました。しかし、私自身、背中を追うのではなく追われる側になり、いつか、自分もまた同じように退官する日が来るのだと思い、身が引き締まります。

今、仕事・人生の折り返し地点です。これまで、先輩方にどこか甘えていた私ですが、 これからは、この20年に自信と誇りを持って職場を盛り立てていかなければならないなと 感じています。なんちゃって; -)



うちじま ひろたか 診療放射線科 照射主任 **内島 弘貴**

この度は永年勤続にて表彰していただき、誠にありがとうございます。ようやく勤続20 年を迎えることが出来ました。今自分があるのは、周りの人たちのお蔭だと思います。

平成もまもなく終わり、新しい年号にかわろうとしています。今年は、サッカーワールドカップイヤーで各国の迫力あるプレイの中、日本代表もおっさんJAPANと揶揄されながらも激闘を繰りひろげ、がんばっています。時代を変えられるか期待が懸かります。そして、2020年の東京オリンピックにつながる盛り上がりを見せられるか楽しみです。

(フェルナンド・トーレスがやって来るか?) そんな中、自分もお腹が気になる40代半ばでコレステロールがちょっと心配ですが・・。それでも、勤続20年はまだ道半ばです。次の勤続30年にむけて健康に気を付け、これからも人との繋がりを大切にし、これから起こる新しい出会いに期待しながら、仕事に頑張って参ります。今後とも、よろしくご指導のほどお願い致します。

臨床検査科 医化学主任 山下 美幸

平成30年度、4月入ってすぐに永年勤続の表彰を受けさせて頂きました。

日常の業務に追われ全く忘れていましたが、いつの間にか20年も経過していたのかとし みじみと振り返りながら、過去を振り返る良い機会になりました。

これまで続けて来れたのも、家族の思いやりや仕事を続けられる環境を提供してくださった諸先輩や後輩のお陰と心より感謝致しております。

今度の目標は、30年の永年勤続を受賞できるよう気分も一新、臨床検査技師として日々 精進して頑張って参りたいと思います。

1病棟 副看護師長 佐田 里穂

この度、平成30年度永年勤続表彰をいただきました。私が就職した当時は「国立療養所東佐賀病院」という名称でした。糖尿病センター(現外来棟)の増改築、看護師寮、更衣棟が新築された年と記憶しています。あれから20数年が経ち、今現在も看護師として職に就いていることに感謝の気持ちでいっぱいです。小さい頃からの夢だった看護師になり、長く重症者病棟に携わり多くのことを学ばせていただきました。楽しい出来事や辛い出来事、思い起こすと長いようであっという間の20年だったなと感慨深い思いです。今では看護師人生が何よりの生きがいになっています。現在はファーストレベルを受講し管理について学んでいます。これからも患者様のためチームスタッフのためにやりがいを持って看護師という職業を全うしていきたいと思います。みなさまのご多幸を願いまして感謝申し上げます。



1病棟 副看護師長 岸川 理恵

この度永年勤続表彰を頂き、ありがとうございました。表彰を機に振り返ると、国立療養所東佐賀病院に入職し20年以上が経過することに驚き、看護を探究してこれた環境に感謝するばかりです。

はじめての配置先は重症心身障害児者病棟でした。脳性麻痺のAさんに感覚刺激を行い、 快の感情を表出させるケアを行ったことや裂脳症のBさんに足浴で体温調整を図り、活動を 導くケアを行ったことを思い出します。Aさん、Bさんへ成長発達に変化をもたらした体験 から「看護者は患者の環境の一部。その環境(看護者)の善し悪しで、患者のQOLに大き な影響を与えてしまう」ということを学び、今でも大切にしています。

このような看護の面白さや責任の重さを教えてくださったのは、患者家族は基より先輩 看護師、同僚、他職種スタッフでした。私はたくさんの方々に支援を頂いて、看護師とし て成長できたことに感謝しています。

最近手にした本の中に『これからが、これまでを決める』という言葉がありました。これから先の看護の道も山あり谷ありだと思いますが、相手の思いに寄り添い、感謝の気持ちを忘れず、今を大切にして、これからも看護師生活を素敵に過ごしていきたいと思います。

3病棟 看護師 長 <u>の</u>ぶこ **三子**

この度は、永年勤続表彰を頂き有り難うございました。私は看護学生の時から東佐賀病院にお世話になっております。卒業後色々な病棟に勤務させて頂き、あらゆる疾患の看護を学ぶことが出来ています。このように看護師として長く働けるのは家族の協力はもちろんですが、周りの人にも恵まれていたからだと思い全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも感謝の気持ちを忘れず病院の目標でもある地域に根ざした良質な医療を提供できるよう自己研鑽しながら看護していきたいと思います。





第2回東佐賀病院学術セミナーを終えて

副院長・外科 北島 吉彦

平成30年6月26日、第2回目となる学術セミナーを開催しました。今回は、第1回よりさらに多くの外部聴講者の方々に来院して頂くことが出来ました。(内訳は、院内職員48名、外部からは医師15名、看護師3名、保健所より1名、消防署員1名、施設管理者4名、計72名となりました。) 改めて御礼申し上げます。

講演は、①髙木佑介医師(糖尿病・内分泌内科医長)、 ②千布 節医師 (呼吸器内科医師)、③山本修一医師 (診療部長) の3名で構成しました。まず、髙木医師に よる講演内容は「産業保健専門職からみた糖尿病現状 について」。特筆すべきは、糖尿病性腎症による人工透 析が医療費高騰に繋がっていること、さらに、この人 工透析増加率において佐賀県が全国でワースト1である という衝撃的データが示されました。現在、この不名誉 な現実を打開する方策として、佐賀大学糖尿病内科が中 心となり県内医療機関で糖尿病コーディネート看護師育 成・支援事業が立ち上げられ、佐賀県の糖尿病医療水 準向上に確実な成果をあげつつあることを呈示して頂き ました。また、糖尿病は悪性新生物(癌)に罹患する危 険率が高く、特に大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、子宮癌に なる危険率が高いことが印象的でした。次に千布医師は 「外国人結核患者の現状」について講演されました。 外国人結核患者は年々増加しており、特に20歳代患者 が多いことを呈示されました。また、当院の患者内訳で

はフィリピン人、ベトナム人、ネパール人の順に多く、

都心部と比べて転出者が少ないため保健所の追跡が比 較的容易であるということも示されました。さらに結核 患者の入国を防ぐため、平成30年度より長期滞在者に は結核非罹患者証明書の提出を義務付けることになった という法律改定内容を呈示されました。最後に山本医師 には小児科医の立場で「気管支喘息と気道感染」につい て講演して頂きました。まず、気道ウイルス感染が気管 支喘息発作を誘発する臨床データを呈示されました。 さらに印象的だったのが、気道上皮細胞のウイルス 感染モデルを使った基礎的研究でした。2本鎖RNAに よるウイルス感染モデルを用いたin vitro解析によると、 感染気道上皮細胞ではIL-4受容体発現が誘導されるた め、間質細胞から分泌されるIL-4の刺激を受けるように なるというデータを示されました。さらに、このIL-4 シグナルが強い好酸球走化性を発揮するケモカインで あるeotaxin-3分泌を惹起するというウイルス感染→ 喘息誘発機序を明快に解説して頂きました。

第1回セミナーと同様、講演内容は多岐に渡っており、 さらに今回は学問的内容もあったため、院内・院外の 医師から数多くの質問が飛び交う熱いセミナーになった と自負しております。

第3回学術セミナーは11月に予定していますが、 院内・外の皆様に有意義な時間を共有できる企画と なるようしっかりと準備したいと考えております。 どうぞ宜しくお願いします。













看護の日の活動 ~地域とのつながりを看護師の笑顔で~

副看護部長

倉富 明美

東佐賀病院がある佐賀県みやき町は、2005年に三町が合併して、県で最初のひらがなの市町村となりました。地理的には、佐賀県の東部、筑後川と筑紫山地(背振山地)に挟まれた筑紫平野の一角をなす平地にあり、焼き物や日本最古の気象台と言われる綾部神社や肥前一宮である千栗神社など歴史的な建造物や綾部神社周辺には、鎌倉時代を起源とする名物もある、水と炎と風の町です。

「看護の日」の活動は、近代看護を築いたナイチンゲールの生誕日(5月12日)を挟む1週間を看護週間として、各地、各施設で取り組まれています。東佐賀病院でも、この活動を通して、広く地域住民の方々へ病院や看護師の仕事に興味を持って頂ける機会となるよう、また、看護のイメージアップを図り、人材の確保・定着に結びつけることなどを目的として、毎年開催しています。今年は、5月9日(水)に、『看護の心をみんなの心に』をメインテーマとして、地域住民の方々への健康チェック、健康相談等を行いました。

看護部サービス委員会が3月にポスターを作成し、 正面玄関や外来、病棟などに掲示し、「看護の日」の 催しの案内に努めました。当日は、みやき町及び周辺 地域から71名の方が参加して頂きました。参加者の年 齢は、10代~90歳代と幅広く、70歳代の方が最も多 く参加されていました。病院職員や院内のポスターで、 この催しを知ったという方が多く、この日を楽しみに していたという声もきかれました。また、開催時間を 9:00~13:00とした事で、外来診察の待ち時間や 診察終了後、入院患者の面会時間前に立ち寄って頂く ことができ、多くの方の参加を促す事ができました。 具体的な内容としては、「血糖測定」「骨密度測定」「栄養補助食品紹介」「ロコモ体操紹介」「栄養相談」「呼吸器相談」を行いました。また、認定看護師や糖尿病コーディネート活動、部署紹介、笑顔のすてきな看護師さんなどをポスターで掲示したことで、看護場面の紹介や院内には様々な職種や資格で活動している職員がいることを紹介することができました。

健康チェックでは、日頃から不安や疑問に思っていることに対応できる様に、栄養士や慢性呼吸器疾患看護認定看護師など専門家による健康相談を行いました。参加者からは、「血糖測定や骨密度測定ができてありがたい」「良い催しだ」「外来受診でゆっくり聞けないことも看護師と話ができる機会になり良かった」

「色々と質問に答えて頂き、わかりやすく説明して頂き参考になりました」という意見を頂くことができました。企画運営した看護師は、地域の方々と直接のふれあいやねぎらいの言葉を頂き、看護のすばらしさを再確認できた充実した時間となりました。

「看護の日」の活動は、地域住民の方が、自己の健康管理と併せて、看護に触れる機会となります。東佐賀病院の理念である『信頼関係を大切にし、地域に根ざした良質な医療の提供』ができるよう、『地域とのつながり』と『看護の心』を大切にしながら今後も継続していきたいと思います。







看護職員就職説明会に参加して

11病棟看護師長中島 恵

平成31年度採用 国立病院機構九州グループ主催の 看護職員就職説明会が5月30日アクロス福岡イベント ホールで開催されました。全体の来場者313名、東佐 賀病院ブース訪問者は42名でした。



東佐賀病院をアピールするに当たり、『地域医療支援病院』として地域医療のニーズに応じた専門医療の提供や、退院支援への充実・内分泌代謝疾患の基幹病院・政策医療に携わる機関としていることをパンフレットで説明してきました。また、新人看護師の研修風景や"患者とふれあえる場所はここでした"をモチーフにした看護場面のポスターを掲示し、リソースナースの紹介や糖尿病コーディネートナースの紹介を行いました。

参加者は、重症心身障がい児(者)看護や感染症に興味がある、整形外科疾患の看護を学びたいなど、自分の考えをしっかり伝えられ、積極的に質問してこられました。また、実習で



の経験や体験したことが、印象に深いことなど話され「東佐賀病院は第1希望です。」と元気に来られた方もいました。実習指導に関わった看護師の醍醐味です。 ブース周囲では、新採用看護師さんを迎えるウエルカムボードのメッセージを一枚一枚、読まれている姿もありました。

就職説明会を通して、"東佐賀病院の看護"を知って もらい、4月に新人看護師として会えることを楽しみ にしています。







地域包括病棟

演奏会を開催して



2病棟看護師長

福田隆恵

東佐賀病院2病棟(地域包括ケア病棟)は、急性期病院からの早期退院患者や、当院で急性期治療を終えた患者の退院までのリハビリ強化、在宅復帰の支援を行っている。患者が安心して住み慣れた地域に退院できるよう入院も最大60日間可能であり、日常生活自立度の向上のために積極的に離床を促し、「遊ビリテーション」と称し病棟リハビリの充実を図っている。毎日デイルームで実施している病棟リハビリは主に、認知症状のある対象にむけたリアリティ・オリエンテーション実施後、座位で出来る体操や、風船バレーなどを約30分間実施している。

今回、入院が長期となる当病棟で、変化の少ない長期 入院生活に彩りを添えようと三養基高校の吹奏楽部によ る演奏会が初めて開催された。27名の部員による童謡 や唱歌・演歌、アニメソングなど多様な年齢層に合わせ た楽曲の演奏があり、入院患者の9割が参加し、手拍子 を打ち一緒に歌い、身体を揺らしながら演奏に聴き入っ ていた。高校生を孫に持つ患者は、部員に握手を求め涙 する場面もあった。日頃は10分程度しか座れない患者 が演奏会の開催された約1時間座位を保ち、自分から手



足を動かしリズムを とる姿には、病棟看 護師も驚き、演奏会 の精神的慰安以外の 効果も実感した。 演奏会後は、「入院していた今日が一番楽しかった。」「昔を思い出した。昔の曲をもっと聴きたい。」など感想やリクエストが聞かれた。また孫やひ孫の世代にあたる吹奏楽部の部員との関わりも大きな刺激となった様子であった。吹奏楽部顧問からは、「部員も大会の前のプレッシャーの大きい中、入院患者とふれあうことで良い気分転換となり、次の活動の原動力となったと思う。今後も是非協力したい。」と感想を頂いた。

現在、地域包括ケア病棟では良質な看護の提供のため長期入院、患者の高齢化という病棟の特徴に合わせ、認知症患者の看護の充実を目標に活動している。今回、昔の音楽で記憶を刺激し、かつての暮らしがよみがえり現在の入院生活、退院後の生活に興味・関心・意欲が高まった様子もみられた。日頃の看護の質の向上はもちろん、演奏会のような活動を続けることで、認知

症看護を充実さ せ地域包括ケア 病棟が他の病棟、 病院、施設から 選ばれるような 病棟を目指して いきたい。





ピカピカリンク勉強会

経営企画室長 相島 正子

当院は平成22年より運用の佐賀県診療情報地域連携システム(ピカピカリンク)の佐賀県東部医療圏の基幹(開示)施設となっております。このピカピカリンクとは、患者の個別の同意の下、ピカピカリンク参加施設間で患者の診療情報を共有出来るシステムで、佐賀県全域で病院、診療所、薬局、介護施設等をカバーする地域連携ネットワークシステムです。

しかし当院はシステムの有効な活用には至っており ませんでした。

そこで昨年、医師会の先生方にピカピカリンクの概要や現状等の情報を提供し、システムの有効性、利便

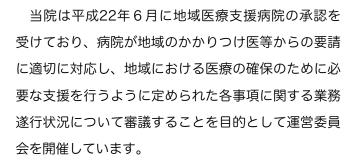
性について1回目の勉強会を開催しました。勉強会後 多数の先生方がピカピカリンクへ入会され、登録患者 の増加に伴いピカピカリンクへのアクセス数も飛躍的 に増加しました。

今回は医師会の先生はもとより、新たに閲覧可能となった介護施設にも案内し2回目の勉強会を4月25日 (水)に開催しました。ID-Link実機操作に時間を割き、直接画面上で体験して頂く内容としました。

今後も勉強会を継続して開催し、更なるピカピカリンクの活用と広報により、地域連携強化を図っていきたいと考えています。

地域医療支援病院運営委員会

経営企画室長 相島 正子



昨年度から年1回の委員会実施を原則の年4回とし、 新たに「鳥栖・三養基地区事務組合消防長」を外部 委員に加え、病院に対する意見を頂戴する機会を増や しました。 平成30年度の第1回地域医療支援病院運営委員会は 5月29日(火)に開催しました。

外部委員より①輪番日の拡大について、②CPAの更なる受入れについて、③拘束体制の強化についての要望が出され、当院としては前向きに検討している所です。

今年度も地域医療支援病院の要件である業務を確実 に遂行し、運営委員会での各意見に対してはスピード 感を持って対応し、佐賀県東部医療圏の中核病院とし ての責務を果たしていくよう努めてまいります。

第1回 感染予防対策セミナーを開催しました 感染管理認定看護師 副看護師長 古瀬 法子

当院は、地域医療支援病院として、医療従事者を対象とした研修に取り組んでいます。その一つとして、地域の介護職の方を対象に「第1回感染予防対策セミナー」を5月30日に開催しました。テーマは「このひと手間が、命を救う」です。超高齢化社会に向けて、介護施設と病院は、共に感染防止対策に取り組むことが重要となります。しかし、多くの介護施設においては「手洗い場の数が少ない。」「ディスポ手袋やエプロンの使用に制限がある。」などの声を聴きます。そのため、今回の研修で「今日から注意する事、出来る事」として、基本となる「人や環境を観察すること・整理



していることにプラスαの感染対策を加える「このひと手間」が、重要であることをお話ししました。その結果、参加頂いた方より「このひと手間ならできそう。」とのご意見を頂くことが出来ました。第2回(7月25日)は、第1回にお渡しした「マニュアルの改正ポイント」の資料を元に、自施設での取り組みや問題点を協議する予定です。地域の介護職の方々と共に取り組む感染予防対策、はじめの一歩が大きなネットワークとなることを目指していきたいと思います。



地域医療連携室のご案内

《区利用方法居己的飞》

1. ご紹介いただく場合について

「診療情報提供書(当院様式以外のものでも結構です)」に必要事項をご記入いただき、ファックスにてご連絡下さい。診療情報提供書をすぐに送信いただけない場合は、直接、新患担当医師又は各診療担当医まで電話にてご連絡下さい。その場合の診療情報提供書は、できるだけ患者様が受診される日時までに、地域医療連携室までFAXいただきますようお願い致します。

2. 緊急時のご紹介について

緊急を要するご紹介は、直接各診療科医師へご連絡下さい。

患者様の症状などを医師同士でご確認していただくことにより、受入体制、各種検査室の手配など 迅速に対応できます。また、救急搬送によるご依頼の場合には、救急当番医師が対応致します。

3. 患者様へのご説明について

受診当日に「予約案内書」「診療情報提供書」「健康保険証」をご持参のうえ、外来受付窓口へご提出いただきますよう説明をお願い致します。

4. ご報告について

診療結果につきましては、地域医療連携室または担当医から、ファックス若しくは郵便にて速やかにご報告申し上げます。なお、報告がないようでしたら地域医療連携室までご一報下さい。

5. 入院のご依頼について

入院をご希望の場合でも、いったん当院の医師の診察後に決定させていただきますので、ご理解の程お願い申し上げます。なお、緊急の場合は直接各診療科へお電話いただき、担当医にご相談いただきますようお願い致します。

6. その他

お問い合わせ、ご不明な点やご意見ご要望等がございましたら、いつでもご遠慮なく「地域医療連携室」へお知らせ下さいますように、お願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構東佐賀病院地域医療連携室

で連絡は下記のファックス又は電話をご利用下さい。

代表: TEL 0942 (94) 2048 内線309

直 通:TEL/FAX 0942 (94) 3748 (FAXは24時間受付)

E-mail: renkei-56@hosp.go.jp

〈平日/午前8時30分~午後5時15分〉

※平日午後5時以降及び土・日・祝祭日受付分は、翌日など出来るだけ早急に返事を送らせていただきます。

外来診療担当医表

(受付時間) 月曜日 ~ 金曜日 (祝日を除く)

新患・再来/8:30~11:30 ※急患はこの限りではありません 小児科受診の新患・再来/8:30~11:30、14:00~16:30



FAX 0942-94-3137 ホームページ http://www.higashisaga-hosp.jp

診療科目			月		火		水		木		金			
	-	新	患		貞松 小林 弘	焦(循環器) 人美(呼吸器)		節(呼吸器)	大井 月田中 百	順二(消化器) 直寛(循環器)	犬山 正吉村 臣	上仁(呼吸器) 昌也(消化器)		
内		呼	吸	器	千布	節	小林	弘美	小村	木 弘美 」 正仁			千布	節
	再	消		器	吉村	昌也	大井	順二			大井	順二	吉村	昌也
	来	循		器			貞松	篤	貞松)	⊞¢	直寛	田中	直寛
科		内		<u>科</u>	1		70/7	//>	70.47	F //>	1		T 1 D2	5 / \
	_		病・内分			佑介	那須	俊甫	那須	便甫	髙木	佑介	重本 里美	€(9:30~)
	専門	甲服	状 ^誠 専門外	腺		/ 岡田								
外科	, ,		以 等 17 / 1 化 器	<u> </u>	北島田中	吉彦	北島	吉彦	⊞4	2 雅之	北島	: 吉彦	田中	雅之
	呼 吸 器				辻	博治	辻	博治	辻	博治	辻	博治		
			泉外科 ·約制)										北島 田中 (午後1:3	吉彦 雅之 3~予約制)
小児科	_		一 般	午前	山本	: 修一	荒牧	修一	山本	∝ 修一	中西	未来	横田	吾郎
		עניל — .		午後	横田	吾郎	荒牧	修一	佐	賀大学	中西	末来	今吉美	美代子
	専門	アレルギー	午前								(第2) (第3)			
	P 5	門(予約制		午後	山本	/ 田中								
整			般 粗しょう£		本岡 水田		本岡	勉	本日		本岡 水田		水田	和孝
形外	専	関	Î	·····································	上通	由紀子	上通	由紀子			上通	鱼 紀子	上通	由紀子
科	門	形	形 成			当面の間休診いたしま			ます。					
放射線科 (9:00~11:0														
消 化 器 内 視 鏡 大井					順二	吉村	昌也	吉木	計 昌也	田中	· 雅之	大井	順二	
	呼吸器内視鏡								辻	博治				
	心	I	_ _											
	眼		科								2	午後	午	後

- 栄養相談は、月曜日~金曜日まで毎日行っています。
- 金曜日の乳腺外来は予約制ですので、事前に外科外来にご予約下さい。
- 小児アレルギー外来は、小児の喘息、アレルギー性鼻炎やアトピーなどの診察、相談を行っています。 小児アレルギー外来、予防接種は予約制ですので事前に小児科外来へご予約下さい。
- 眼科外来は、当院にて治療中の患者様に限ります。



- 1. JR長崎本線普通列車「中原駅」下車。 2. 西鉄バス (西鉄久留米) ~ (鳥栖駅) 間 3. 九州自動車道及び長崎自動車道 南へ徒歩15分(1.4km)
 - ●鳥栖駅~中原駅間 約9分
 - ●佐賀駅~中原駅間 約17分
- (あやべ経由41番)の「東佐賀病院前」 にて下車。
 - ●西鉄久留米より 約30分
 - ●JR久留米より 約20分
 - ●JR鳥栖より 約30分
- - ●鳥栖インターより(国道34号線経由) 約30分
 - ●東脊振インターより(県道31号線経由) 約20分

地域医療研修センターのご案内

本センターは医療従事者の方であれば利用者の職種は問いません。

病院の職員をはじめ地域住民の皆様、及び医療機関の皆様、講演会・研修会・勉強会等医療・健康に関する コミュニケーションの場としてご利用下さい。

☎0942 (94) 2048

(内線 333 又は 219)









季節が夏へ移り変わり暑い毎日が続いています。

今年は記録的な猛暑となり、気温が35度を超える所が多く、さらに、40度を超える所 も出て来ました。熱中症に気を付けるためにもこまめに水分補給をとっていきましょう。 また、夏バテに負けずに頑張っていきましょう。 (広報誌委員会)